

大中華文庫
大中華文庫

史記選

史記



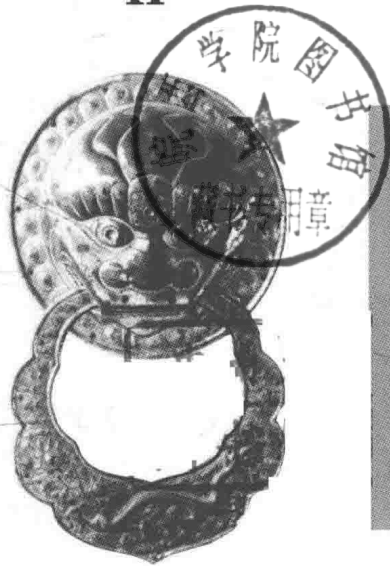
大中華文庫

漢日對照

史記選

史記選

II



(西漢) 司馬遷 著

小竹

安

小竹文夫

註

外文出版社

目 录

伍子胥列传	398
商君列传	422
孟子荀卿列传	446
孟尝君列传	460
平原君虞卿列传	494
魏公子列传	522
范雎蔡泽列传	544
廉颇蔺相如列传	604
田单列传	638
吕不韦列传	650
刺客列传	664
淮阴侯列传	708



目 次

伍子胥列伝	399
商君列伝	423
孟子荀卿列伝	447
孟嘗君列伝	461
平原君虞卿列伝	495
魏公子列伝(信陵君列伝)	523
范雎蔡沢列伝	545
廉頗藺相如列伝	605
田单列伝	639
呂不韋列伝	651
刺客列伝	665
淮陰侯列伝	709





伍子胥列传

【原文】

伍子胥者，楚人也，名员。员父曰伍奢。员兄曰伍尚。其先曰伍举，以直谏事楚庄王，有显，故其后世有名于楚。

楚平王有太子名曰建，使伍奢为太傅，费无忌为少傅。无忌不忠于太子建。平王使无忌为太子取妇于秦，秦女好，无忌驰归报平王曰：“秦女绝美，王可自取，而更为太子取妇。”平王遂自取秦女而绝爱幸之，生子轸。更为太子取妇。

无忌既以秦女自媚于平王，因去太子而事平王。恐一旦平王卒而太子立，杀己，乃因谗太子建。建母，蔡女也，无宠于平王。平王稍益疏建，使建守城父，备边兵。

顷之，无忌又日夜言太子短于王曰：“太子以秦女之故，不能无怨望，愿王少自备也。自太子居城父，将兵，外交诸侯，且欲入为

【今译】

伍子胥是楚国人，名员。他的父亲叫伍奢，哥哥叫伍尚。他的祖先叫伍举，凭借直言进谏侍奉楚庄王，颇有声望，所以他的后人在楚国很有名气。

楚平王有个太子名叫建，平王派伍奢作太子太傅，费无忌作太子少傅。费无忌对太子建不忠。平王派费无忌给太子到秦国娶亲，秦国女子长得很漂亮，费无忌就跑回去报告平王道：“秦国女子长得非常漂亮，大王可以自己娶了她，另外再给太子娶个妻子。”平王于是自娶了这个秦国女子，并且十分宠爱她，后生子名轸。平王另外给太子娶了妻子。

费无忌凭借秦女得宠于平王后，便离开太子而侍奉平王。他担心有朝一日平王驾崩，太子即位，会杀自己，于是在平王面前说太子建的坏话。太子建的母亲是蔡人，不得平王宠爱。于是平王渐渐地越来越疏远太子建了，派他去驻守城父，负责边防。

不久，费无忌又不停地在平王面前讲太子的坏话，他说：“太子因那个秦国女子的缘故，不会不生怨望之心，希望大王自己提防一下。自从太子驻守城父，统领军队，结交诸侯，恐怕想要回来作乱



伍子胥列伝

伍子胥は楚の人、名は員。父を伍奢、兄を伍尚といい、先祖に伍挙という人がいた。伍挙は楚の荘王に仕え、いつも直諫したので名声があがり、そのため、子孫も楚では有名であった。楚の平王に太子があり、名を建とつけた。伍奢はその太傅となり、費無忌が少傅となったが、無忌は太子建に忠実ではなかった。平王が、太子の妻を秦から迎えようと、無忌を秦につかわしたところ、秦の王女が美貌であったので、無忌は馬を馳せて帰り、平王に報告した。「秦の王女は絶世の美人でございます。王がご自分でめとられ、太子のためには、別の婦人を迎えられたほうがようございましょう。」

平王は、ついに自分で秦の王女をめとり、寵愛おかず、子の軫が生まれた。そして、太子のためには改めて別の妻を迎えた。このように無忌は、秦の王女をもって平王に媚びたので、太子のもとを去り、平王に仕えたが、もしも王に万一のことがあり、太子が即位することになったら、自分の命があぶないと、太子建を讒言した。建の母は蔡の国の女で、すでに平王の寵愛を失っていたので、平王は、これより建をうとんじ、建を城父（安徽・亳県の東南）の守として、国境の敵に備えさせた。その後しばらくして、無忌はまた日夜、王に太子の悪口を言いたてた。「太子は、秦の王女のことで、恨みをいだかぬはずはございません。王におかれては、ちと、ご用心なされますよう。太子は城父に居住し、軍を率いて以来、外は諸侯と交わり、やがて都に入って、乱を起こそうとしております。」

【原文】

乱矣。”平王乃召其太傅伍奢考问之。伍奢知无忌谗太子于平王，因曰：“王独奈何以谗贼小臣疏骨肉之亲乎？”无忌曰：“王今不制，其事成矣。王且见禽。”于是平王怒，囚伍奢，而使城父司马奋扬往杀太子。行未至，奋扬使人先告太子：“太子急去，不然将诛。”太子建亡奔宋。

无忌言于平王曰：“伍奢有二子，皆贤，不诛且为楚忧。可以其父质而召之，不然且为楚患。”王使使谓伍奢曰：“能致汝二子则生，不能则死。”伍奢曰：“尚为人仁，呼必来。员为人刚戾忍诟，能成大事，彼见来之并禽，其势必不来。”王不听，使人召二子曰：“来，吾生汝父；不来，今杀奢也。”伍尚欲往，员曰：“楚之召我兄弟，非欲以生我父也，恐有脱者后生患，故以父为质，诈召二子。二子到，则父子俱死。何益父之死？往而令仇不得报耳。不如奔他国，借力以雪父之耻，俱灭，无为也。”伍尚曰：“我知往终不

【今译】

了。”平王于是把太子太傅伍奢召来查问。伍奢知道是费无忌在平王跟前毁谤太子，便说：“大王怎么能因谗贼小臣疏远父子的骨肉关系呢？”费无忌说：“如果大王不马上制止，他的阴谋就要得逞。那时大王就要落到别人手里了！”因此平王大怒，拘捕了伍奢，同时派城父司马奋扬去杀太子。半路上，奋扬派人先去通知太子：“太子赶快离开吧，不然将被杀。”于是太子建逃亡到了宋国。

费无忌对平王说：“伍奢有两个儿子，都很有才能，不杀掉恐将成为楚国之忧。可以拿他们的父亲当人质，把他们召来，不这样会成为楚国的后患！”平王派人伍奢说：“能招致你的两个儿子来就可以活，否则就是死。”伍奢说：“伍尚为人仁厚，叫他肯定会来。伍员为人桀傲不驯，坚忍卓绝，能成大事，他知道来了一并被捉，势必不来。”平王不听，派人去召他们说：“你们来了，我饶你们的父亲不死；不来，现在就杀死伍奢。”伍尚打算前往，伍员说：“楚王叫我们兄弟去，并不是想保全我们父亲的性命，他只是担心有逃脱的，会生后患，所以拿父亲作人质，用欺骗的方法来叫我们。两个儿子一到，就会父子一同处死。对于父亲的死，有什么好处？去了，仇就报不成了！不如逃到别国，藉他人之力来洗雪这个耻辱，一起死，毫无意义。”伍尚说：“我知道去了终究不能保全父亲的性命。但是心中懊悔父亲召我们以求生而我们不去，将来又不能报仇雪恨，最



そこで、平王は建の太傅伍奢を召して問いただした。伍奢は無忌が平王に太子を讒言したものと察して、王に言った。「王は、どうして、ただ讒賊小臣のことばを信じ、骨肉の親をうとんじられますか。」しかるに、無忌は王に、「王よ、いまにして彼らを抑えなければ、陰謀は成功し、王はいまにも虜とりこにされましよう」と言った。

平王は怒って伍奢をとらえ、また城父の司馬奮揚ふんように命じて、太子を殺しに行かせた。到着に先だつて、奮揚は使いを太子のもとにやり、「太子よ、急ぎ去りたまえ。さもなければ、やがて誅せられましよう」と告げたので、太子は宋そうに亡命した。

無忌は平王に言った。「伍奢に子が二人ありまして、どちらも賢うございます。殺さなければやがて楚の禍いとなりましよう。父親を人質として、この二人を召されるのがよろしく、さもなければ、そのうち、楚のうれいとなります。」

主は使いをやつて伍奢に言った。「おまえの二子と呼ばれ寄せられるなら、おまえを生かそう。それができないなら、生かしておけぬ。」

伍奢が言った。「兄の尚は、生れつき情愛にもろいので、呼べばかならず来るでしょう。弟の員うんは、生れつき強情で、恥を忍び、大事を成す男でございます。来ればともども虜にされると思い、来ることはございますまい。」王は、これに耳をかさず、二人を召し寄せようと、使いをやり、「来るならば、おまえたちの父を生かしてくれよう。来ないなら、すぐにも殺してしまおう」と言させた。尚がこれに応じて行こうとすると、員うんは言った。「楚がわれら兄弟を召し寄せるのはわが父を生かそうがためではない。われらのうち逃げる者があれば、あとになって禍いのおこるのを恐れ、父を人質としていつわり召すのである。二人がゆけば、父子ともどもに殺され、父の命には、何の足しにもなるまい。行けば、讎あだを報いられぬようにされるだけのこと、いっその他国にのがれ、その力をかりて、父の恥をすすぐほうがましだ。ともどもに滅びては、しょうがあるまい。」

尚は言った。「行つたとて、所詮父の命を全うできないことは、私にもわかる。さりながら、父が私を召し寄せて、生きながらえようとされるのに行きもせず、そのうえ、後日もしも恥をそそげないような



【原文】

能全父命。然恨父召我求生而不往，后不能雪耻，终为天下笑耳。”谓员：“可去矣！汝能报杀父之仇，我将归死。”尚既就执，使者捕伍胥。伍胥贯弓执矢向使者，使者不敢进，伍胥遂亡。闻太子建之在宋，往从之。奢闻子胥之亡也，曰：“楚国君臣且苦兵矣。”伍尚至楚，楚并杀奢与尚也。

伍胥既至宋，宋有华氏之乱，乃与太子建俱奔于郑。郑人甚善之。太子建又适晋，晋顷公曰：“太子既善郑，郑信太子。太子能为我内应，而我攻其外，灭郑必矣。灭郑而封太子。”太子乃还郑。事未会，会自私欲杀其从者，从者知其谋，乃告之于郑。郑定公与子产诛杀太子建。建有子名胜。伍胥惧，乃与胜俱奔吴。到昭关，昭关欲执之。伍胥遂与胜独身步走，几不得脱。追者在后。至江，江上有一渔父乘船，知伍胥之急，乃渡伍胥。伍胥既渡，解其剑曰：“此剑直百金，以与父。”父曰：“楚国之法，得伍胥者赐粟五万石，爵执

【今译】

后只是被天下人耻笑啊！”又对伍员说：“你走吧！你能报父仇，我要投身就死。”伍尚就擒后，使者又要去抓伍胥，伍胥弯弓搭箭对着使者，使者不敢近前，伍子胥就逃掉了。又听说太子建在宋国，便去投奔。伍奢听说伍子胥逃跑了，便说：“楚国君臣恐怕要为战事所苦了！”伍尚到了楚国，楚王把伍奢和伍尚一起处死了。

伍子胥到了宋国，宋国刚好发生华氏之乱，伍子胥便同太子建逃到了郑国。郑国君臣对他们很友好。太子建又前往晋国，晋顷公说：“太子对郑国好，郑人又信任太子。如果太子能给我从内接应，而我自外攻入，肯定能灭掉郑国。灭掉郑国，就把郑地封给太子。”太子于是返回郑国。事情还没准备妥当，恰巧太子有件私事要杀从者，这个从者知道他的计划，便告诉了郑国。郑定公和子产便诛杀了太子建。太子建有个儿子名叫胜。伍子胥怕丧命，便和胜一起逃往吴国。到昭关时，守卫要抓他们，伍子胥就和胜二人徒步逃亡，几乎不能幸免。追赶的人穷追不舍。伍子胥逃到了江边，江上有个渔父驾着船，知道了伍子胥情况危急，就渡他过江。过了江，伍子胥解下佩剑，说：“这把剑值百金，送给你吧。”渔父说：“楚国法令，抓到你的赐粟五万石，封执珪之爵，岂只百金之剑呢！”不肯接受。伍子胥还



ことがあったら、それこそ天下の物笑いで私にはそれだけが気にかかるのだ。員よ、おまえは逃げたがよい。おまえは父を殺した讎に報いることもできよう。私は死地に赴くこととする。」

こうして尚は縛についたが、使者が子胥を捕えようとする、子胥は矢をつがえ、弓をしぼって立ち向かい、使者がたじろぐ間に、逃げおおせた。太子建が宋にいと聞いて、宋に行き建に従った。奢は子胥が逃亡したと聞くと、「楚国の君臣ら、ゆくゆくは兵難に苦しむことだろう」と言った。尚が楚につれられて来ると、楚は奢と尚を二人とも殺した。

子胥は、宋に行ったのち、宋に華氏の乱（元公に対する華定・華亥らの叛乱）があったので、太子建とともに鄭にのがれた。鄭の人らは建をもてなすこと、すこぶる厚かった。ついで、太子建が晋に行くと、晋の頃公が言った。「太子は、すでに鄭と親しく、鄭に信用されている。もし太子が、鄭を裏切つて晋に内応するなら、わがほうは外から攻めて、きっと鄭を滅ぼすことができる。鄭を滅ぼせば、太子を封じて領邑を与えよう。」

そこで太子建は鄭に還ったが、機会を得ないうち、たまたま建は、ひそかに自分の従者を殺そうとした。従者は建の陰謀を知っていたので、鄭に密告し、鄭の定公は子産とはかって、太子建を誅殺した。建に子があつて、名を勝と叫んだ。子胥は恐れて、勝とともに呉に出奔した。昭関（呉・楚の境、安徽含山の北）に着くと、関の役人に捕えられようとしたので、ついに勝と離れ、単身徒歩で逃げたが、追手が背後に迫り、追いつめられたまま長江（揚子江）の河岸に出た。たまたま、江上に一人の漁父が船を操っていたが、子胥の危急を知って、彼を向う岸に渡した。

対岸にあがると、子胥は自分の佩剣を解いて、「この剣は価百金だが、お礼としておまえに進呈しよう」と差し出した。すると漁父は、「楚の法によれば、伍胥を捕えた者には粟五万石と執珪の爵位を賜う



【原文】

珪，岂徒百金剑邪！”不受。伍胥未至吴而疾，止中道，乞食。至于吴，吴王僚方用事，公子光为将。伍胥乃因公子光以求见吴王。

久之，楚平王以其边邑锺离与吴边邑卑梁氏俱蚕，两女子争桑相攻，乃大怒，至于两国举兵相伐。吴使公子光伐楚，拔其锺离、居巢而归。伍子胥说吴王僚曰：“楚可破也。愿复遣公子光。”公子光谓吴王曰：“彼伍胥父兄为戮于楚，而劝王伐楚者，欲以自报其仇耳。伐楚未可破也。”伍胥知公子光有内志，欲杀王而自立，未可说以外事，乃进专诸于公子光，退而与太子建之子胜耕于野。

五年而楚平王卒。初，平王所夺太子建秦女生子轸，及平王卒，轸竟立为后，是为昭王。吴王僚因楚丧，使二公子将兵往袭楚。楚发兵绝吴兵之后，不得归。吴国内空，而公子光乃令专诸袭刺吴王僚而自立，是为吴王阖庐。阖庐既立，得志，乃召伍员以为行人，而与谋国事。

【今译】

没到吴国就病倒了，滞于中途，讨饭苟存。到了吴国时，吴王僚正掌权，公子光为将，伍子胥便通过公子光求见吴王。

过了一段时间，楚平王因楚国边城的锺离人与吴国边城的卑梁氏都养蚕，两地女子因争桑叶而斗，于是大怒，以致两国兴兵相互讨伐。吴国派公子光攻楚，占领了锺离、居巢后回国了。伍子胥劝吴王僚说：“楚国可以破啊。希望再派公子光去。”公子光对吴王说：“那伍子胥的父兄死于楚国，他劝你攻楚，不过想报私仇罢了。楚国打不下来的。”伍子胥知道公子光对内有野心，想弑吴王僚而自立，故不能用外事来游说他，便向他推荐了专诸，自己归隐，和太子建的儿子胜到乡下种田去了。

五年后，楚平王去世。原先平王夺的太子建的秦女生子名轸，平王死后，轸竟然继立为昭王。吴王僚趁楚国大丧，派两个公子带兵袭楚。楚人发兵断了吴军的后路，吴军退不回去。吴国内部空虚，于是公子光就让专诸杀死吴王僚，然后自立为王，这就是吴王阖庐。阖庐作了王，志得意满，于是召回伍员，任以行人，让他参与商量国家大事。



という。何と百金の劍どころではあるまい」と言って受け取らなかった。子胥は呉に行きつかないうちに病氣となり、途中乞食をしながらようやく呉についた。呉では、呉王僚が事を好み、公子光を將軍とした際であったので、光の手引きで、謁見を求めた。その後しばらくして、楚の辺境の邑鍾離と、呉の辺境の邑卑梁氏と、いずれも邑民は養蚕に従事していたが、双方の女子が桑を争ったことから、両邑の民が攻めあった。楚の平王は大いに怒り、ついに呉・楚両国たがいに出兵して戦うにいたった。

呉は公子光に楚を伐たせ、光は楚の鍾離・居巢を破って帰還した。子胥は呉王僚に説いて言うよう、「楚は破ることができます。どうか、もう一度公子光をお遣わしになりますように」と。

公子光は、呉王に言った。「かの伍子胥は、父と兄を楚のために殺されたものであります。王に楚を伐つよう勧めるのは、これです。みずから讎を報いたいだけのことです。いま、楚を伐つても、まだ破ることはできません。」

子胥は、公子光に謀反の心があり、王を殺して自立しようと望んでいるのを知り、この際、外征などを言うべきではなかったとさとり、専諸という者を公子光に推薦して、自分は身を退き、太子建の子勝と田野に耕して、時機の到来を待った。

五年ののち、楚の平王が亡くなった。さきに平王が、太子建から奪った秦の王女が、子軫を生んでいたのので、王が亡くなると、結局軫が立って後を嗣いだ。これが昭王である。呉王僚は、楚の喪中に乗じ、二公子（母の弟掩余と燭庸）に、兵を率いて楚を襲撃させた。楚は出兵して呉軍の背後を絶ったため、呉軍は引き返そうにも帰れなくなった。公子光は、軍が出払った国内の手薄に乗じ、専諸に命じて呉王僚を襲殺させ、自立した。これが呉王闔廬である。闔廬は自立して志を遂げると、伍員（子胥）を召して行人（外交使節の官）とし、ともに国事をはかった。



【原文】

楚诛其大臣郤宛、伯州犁，伯州犁之孙伯嚭亡奔吴，吴亦以嚭为大夫。前王僚所遣二公子将兵伐楚者，道绝不得归。后闻阖庐弑王僚自立，遂以其兵降楚，楚封之于舒。阖庐立三年，乃兴师与伍胥、伯嚭伐楚，拔舒，遂禽故吴反二将军。因欲至郢，将军孙武曰：“民劳，未可，且待之。”乃归。

四年，吴伐楚，取六与濞。五年，伐越，败之。六年，楚昭王使公子囊瓦将兵伐吴。吴使伍员迎击，大破楚军于豫章，取楚之居巢。

九年，吴王阖庐谓子胥、孙武曰：“始子言郢未可入，今果何如？”二子对曰：“楚将囊瓦贪，而唐、蔡皆怨之。王必欲大伐之，必先得唐、蔡乃可。”阖庐听之，悉兴师与唐、蔡伐楚，与楚夹汉水而陈。吴王之弟夫概将兵请从，王不听，遂以其属五千人击楚将子常。子常败走，奔郑。于是吴乘胜而前，五战，遂至郢。己卯，楚昭

【今译】

楚国杀了大臣郤宛、伯州犁，伯州犁的孙子伯嚭逃到了吴国，吴国也任命伯嚭作了大夫。从前吴王僚所派带兵攻楚的两个公子，后路被断回不了吴。后来听说阖庐弑吴王僚自立，便带兵降楚，楚国封他们于舒。阖庐为王三年，就兴兵同伍子胥、伯嚭攻楚，占领舒地，擒获了原来吴国的两个叛将。于是阖庐想趁势攻郢，将军孙武说：“百姓疲惫，还不行，姑且等等。”于是收兵回国。

阖庐四年（公元前511年），吴攻楚，占领了六地和濞地。五年，攻越，大败越国。六年，楚昭王派公子囊瓦带兵伐吴。吴派伍子胥迎击，在豫章大破楚军，夺取了楚国的居巢。

九年（公元前506年），吴王阖庐对伍子胥、孙武说：“当初你们说郢地进不了，现在怎么样？”二人回答说：“楚将囊瓦贪财，唐国、蔡国都恨他。大王若一定要大举攻伐，一定要先得到唐、蔡的支持才行。”吴王听取了 this 个意见，发动全部军队和唐、蔡一起攻楚，跟楚军在汉水两岸摆开阵势。吴王的弟弟夫概带领军队请求跟从，吴王不许，夫概便带所属五千人攻打楚将子常。子常败逃到郑国。于是吴国乘胜前进，五战打到郢都。己卯日，楚昭王出逃。庚辰日，吴王



楚では、大臣の郤宛^{げきえん}・伯州犁^{はくしゅうれい}が誅殺され、一味の伯州犁の孫伯嚭^{はくひ}が呉に逃亡して来た。呉では嚭を大夫とした。さきに王僚が、楚を伐つため将軍として派遣した二公子は、退路を断たれて帰ることができなかったが、のちに闔廬が王僚を殺して自立したと聞き、ついに兵もろとも楚に帰順した。楚は二公子を、舒^{じよ}（安徽・舒城）に封じた。闔廬は即位ののち三年に師を興し、子胥・伯嚭と楚を伐つて舒をおとし、ついに、もとの呉の叛将の二公子を虜にした。さらに郢に進撃しようとしたところ、将軍孫武^{そんぶ}が、「民はつかれています。まだ、その時機ではありません。しばらく待たれよ」と言ったので、兵を引いた。

闔廬即位の四年（前511年）、呉は楚を伐つて六^{りく}（安徽・六安）と潜^{せん}（安徽・霍山^{かくざん}）を攻略し、五年には、越^{えつ}を伐つてこれを破った。六年には、楚の昭王が囊瓦^{どうが}を将軍として呉を伐つたので、呉は子胥に迎え撃たせ、予章^{よししょう}（江西・南昌）で大いに楚軍を破り、楚の居巢を攻略した。

九年（前506年）、呉王闔廬は子胥と孫武に言った。「先年、きみらは、まだ郢に侵入の時機ではないと言ったが、いまはどうだろうか。」二人が答えて言った。「楚の将軍囊瓦が貪欲なため、唐・蔡二国はいずれも楚を恨んでおります。王が、どうしても楚を伐とうと思し召すなら、なにはどもあれ、ます唐・蔡二国を味方に引き入れるようになさいます。そのうえでならば、よろしゅうございましょう。」

闔廬は、これを聴き入れ、全軍をあげて唐・蔡とともに楚を伐ち、漢水^{かん}（揚子江の支流、湖北・漢陽で合流す）をはさんで楚軍と対陣した。呉王の弟夫概^{ふがい}は、兵を率いて従軍したいと願ったが、許されなかったので、私兵五千人を率い、楚将子常^{しじょう}（囊瓦^{あざな}の字）を撃った。子常は敗走して鄭に出奔した。呉は勝ちに乗じて前進し、五たび戦って、ついに楚の都郢^{きぼう}に迫った。己卯の日、楚の昭王は出奔し、翌庚辰^{こうしん}

【原文】

王出奔。庚辰，吴王入郢。

昭王出亡，入云梦；盗击王，王走郢。郢公弟怀曰：“平王杀我父，我杀其子，不亦可乎！”郢公恐其弟杀王，与王奔随。吴兵围随，谓随人曰：“周之子孙在汉川者，楚尽灭之。”随人欲杀王，王子綦匿王，己自为王以当之。随人卜与王于吴，不吉，乃谢吴不与王。

始伍员与申包胥为交，员之亡也，谓包胥曰：“我必覆楚。”包胥曰：“我必存之。”及吴兵入郢，伍子胥求昭王。既不得，乃掘楚平王墓，出其尸，鞭之三百，然后已。申包胥亡于山中，使人谓子胥曰：“子之报仇，其以甚乎！吾闻之，人众者胜天，天定亦能破人。今子故平王之臣，亲北面而事之，今至于僇死人，此岂其无天道之极

【今译】

入郢都。

楚昭王出逃，进入云梦；有强盗攻击，便逃到郢地。郢公的弟弟怀说：“平王杀了我们的父亲，我们杀他的儿子，不很公道吗？”郢公怕弟弟杀了昭王，便跟昭王逃到随。吴兵围随，对随人说：“汉川一带的周室子孙，都被楚人灭掉了。”随人想杀昭王，王子綦把昭王藏起来，说自己是昭王以搪塞他们。随人又进行占卜，认为把楚王送给吴国不吉，于是婉言拒绝把昭王送给吴国。

当初，伍子胥和申包胥结交，伍子胥逃亡时，对申包胥说：“我一定要颠覆楚国。”申包胥说：“我一定能保全它。”等到吴军入郢，伍子胥搜寻昭王不得，就挖开楚平王的坟墓，拖出尸体，鞭打三百鞭，这才罢休。申包胥逃到山中，派人对伍子胥说：“你这样报仇，太过分了吧！我听说，人多可以胜天，天定也能破人。你原是平王的臣子，曾亲自侍奉过他，如今到了侮辱死人的地步，这难道不是没天理之极吗！”伍子胥说：“替我向申包胥道歉吧，我处境好比



の日、吳王は郢に入城した。昭王は都を落ちのびて雲夢沢（湖北・天門の西）に入ったが、野盗に襲われて鄖国（湖北・安陸地方）に逃げた。鄖公の弟懷は言った。「平王は、わが父を殺した。私が、その子昭王を殺すのはいけないだろうか。」鄖公は弟が昭王を殺すのではないかと、昭王とともに隨（湖北・隨県）の国に出奔した。呉の兵は隨を包圍し、隨の国人に、「漢川（湖北）にいた周の子孫（呉・隨ともに姓は姬で、周と同姓）は、みな楚のために滅ぼされた」と宣伝したので、隨人は昭王を殺そうとした。王子綦は父王をかくして、みずから王になりすまし、王の身替りとなって死んだ。隨では王の屍を呉に引き渡してよいか占ったところ、不吉と出たので、謝絶して渡さなかった。

かつて子胥がまだ楚にいたころ、申包胥と交遊したが、楚を出奔するにあたって、包胥に、「私はいつかかならず楚を顛覆させてみせる」と言うと、包胥は、「私はかならず楚を存続させてみせる」と言った。いま、吳軍が郢に入城すると、子胥は昭王を捜したが、わからなかった。かわりに楚の平王の墓をあばいて屍を引き出し、三百回鞭うってようやく止めた。包胥は山中に逃げこみ、人づてに子胥に言った。「きみの復讐の仕方は何とひどいことか。私はこう聞いている、『人は多数をたのむとき、一時は天道に勝つが、天道が定まれば、また人を破る』と。きみは、もと平王の臣で、親しく北面して仕えた身なのに、いまや、その屍を辱しめるにいたった。これでは、どうして循環の窮まるどころ、天道が定まってまた人を破るときが来ないものだろうか。」



【原文】

乎！”伍子胥曰：“为我谢申包胥曰，吾日莫途远，吾故倒行而逆施之。”于是申包胥走秦告急，求救于秦。秦不许。包胥立于秦廷，昼夜哭，七日七夜不绝其声。秦哀公怜之，曰：“楚虽无道，有臣若是，可无存乎！”乃遣车五百乘救楚击吴。六月，败吴兵于稷。会吴王久留楚求昭王，而阖庐弟夫概乃亡归，自立为王。阖庐闻之，乃释楚而归，击其弟夫概。夫概败走，遂奔楚。楚昭王见吴有内乱，乃复入郢。封夫概于堂溪，为堂溪氏。楚复与吴战，败吴，吴王乃归。

后二岁，阖庐使太子夫差将兵伐楚，取番。楚惧吴复大来，乃去郢，徙于郢。当是时，吴以伍子胥、孙武之谋，西破强楚，北威齐晋，南服越人。

其后四年，孔子相鲁。

后五年，伐越。越王句践迎击，败吴于姑苏，伤阖庐指，军却。

【今译】

日暮途远，所以只能倒行逆施。”于是申包胥跑到秦国告急，向秦求救。可是秦国不答应。申包胥站在秦的朝堂上，七日七夜，痛哭不止。秦哀公怜悯他，说：“楚国虽然无道，但有这样的臣子，能不存在下去吗？”于是派兵车五百辆击吴救楚。六月，在稷打败吴军。恰巧吴王长期留在楚国找昭王，而阖庐弟夫概回国自立为王。吴王得知后于是放弃楚国，回去攻打他的弟弟夫概。夫概败逃到楚国。楚昭王见吴国有内乱，就返回郢都。把夫概封到堂溪，称堂溪氏。楚国再跟吴作战，打败吴国，吴王就回去了。

两年后，吴王派太子夫差带兵攻楚，占领番地。楚人怕吴再次大举而来，便离开郢都，迁徙到郢。此时，吴国凭伍子胥、孙武的计谋，西破强楚，北震齐晋，南服越人。

此后四年，孔子在鲁国任相。

过了五年，吴国攻越，越王句践迎击，在姑苏打败吴军，伤了吴王阖庐的脚趾，吴军退却。吴王创伤发作，临死，对太子夫差说：